



枯  
推  
总

字

字

字

一葉抄第九

抄巻 字巻一

字巻十指ハ六丈紙之位也 生或部 書

毎の云候あり不可用之字巻二

春竹河紅梅の巻あり混亂より別

人の作と見候但文辨前よある

られり時代と書者次巻の名を尋

よりて号より抄巻の文字は一

禪師説くゆゑ十九葉より一葉取

この事い巻あり

その世よりて是れをぬぬまわりなり

是ハ八女ののりくハ一のて書也きふ  
りてりくおる世一何の事一りき  
ふりてりくおる世一何の事一りき  
ふりてりくおる世一何の事一りき  
ふりてりくおる世一何の事一りき

母方るもむじしき 八女の母

女方るもむじしき

すらしぬくもえ 朱雀院法位

中しきあしき

中しきあしき

あしきあしきあしきあしき  
あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき

あしきあしきあしきあしき

眼若く ぬめたる

らぬらん ぬめたる ぬめたる

中 ぬめたる ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

鴨の子 ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

ぬめたる ぬめたる

もほろりりや。 女の心はしづこ  
しんまり眼蓋ふら母蓋ふりのり  
ゆいあひぢやかむあはれなり  
善子らと子ついでぬき流ぐんしは出敷  
のりくあひまきぬいしてしむかむ流ぐ  
まらひひしきぬり 流ぐんあしは  
ふしうあひやうしうしんあはれ船  
したゆきしり流ぐのりくあはれ  
まきんのかゆにきし

硯よハ 硯の文珠の眼なりと云非の流ぐ  
あきしりのゆてしよあ書

又行りてのいであや

さうしきぬ 樂の川もさうさう  
ゆりゆき 八家の母女流ぐ又のり  
さうりさ 雅系察れふ人のゆき  
流ぐのりし流ぐ八家の流ぐ  
まはゆき八家の流ぐ書あ  
ゆり物流ぐ流ぐのり流ぐ書  
はららるる流ぐ流ぐ流ぐ流ぐ  
のり流ぐ流ぐ流ぐ流ぐ流ぐ  
まゆかき

いふと世中ひらひら流ぐ流ぐ 流ぐの流

泉院とてくまののちのいへまよ  
まわしやばりのし事あり

いふはつゝまをてある 徳氏に中  
あねとてはる西元才のありし  
と其よりてまをていましとて  
いふはつゝまをてある

又い年はつゝまをてある 申同  
ゆりふれよ又あはるはつゝ  
あはるはつゝまをてある  
あはるはつゝまをてある  
あはるはつゝまをてある  
あはるはつゝまをてある

あはるはつゝ

野山のよま ちみたりとてはつゝ

やまのまはつゝ

凡し人をきくはつゝ 文の法款はつゝ

あはるはつゝまをてある

あはるはつゝまをてある

あはるはつゝまをてある

いふはつゝまをてある

あはるはつゝまをてある

あはるはつゝまをてある

冷泉院よ け裏のち役をいふ

そぬ聖之院をくゆといふなりしと  
いまつらひくぬと云や 冷泉院は  
宰相中将 是はゆふの年のぬ  
おしやきぬくぬのうきぬ  
いりた一書の十月までこのり  
乃しきり竹河の末知ぬ  
紀まゆりもた二書のりり  
まよりハ後のりあり  
ふと世中く くの道か  
このは同ぬまのりりりり  
そあつてこのりあり

出家のりりハ せりりのりりハ  
市事くりりりりり  
とぬよぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
らぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
ゆつりりりりりりりりりりり  
十のりりりりりりりりりりり  
しりりりりりりりりりりり  
中しりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりり  
中しりりりりりりりりりりり  
せぬいりりりりりりりりりり



ましゆり人の妻世々人よむいしよあふ  
りしよあふもなるはらうしよあふせぬ  
よやハまきまのいなるしよあふし  
いし使く せりしよあふしよあふ  
て又あつひあふしよあふ  
はあま早下の  
ふはあまハまきまのいなるしよあふ  
のふしよあふしよあふしよあふの  
あふのいなるしよあふしよあふ  
のハまきまのいなるしよあふしよあふ  
いしよあふし

れ世々人のいしよあふしよあふ  
のふはあま早下のいなるしよあふ  
しよあふしよあふしよあふしよあふ  
しよあふしよあふしよあふしよあふ  
しよあふしよあふしよあふしよあふ  
しよあふしよあふしよあふしよあふ

きりあふしよあふしよあふしよあふ  
生る生始不知死しよあふ死終不知也  
いしよあふしよあふしよあふ

草の庵よ 家のいしよあふしよあふ  
いしよあふしよあふしよあふしよあふ  
いしよあふしよあふしよあふしよあふ

彼の目もきし物もまじし 己馬に

ふりよつたあはれしきりし事

もあつたあはれしきりし事

見ゆらりしあはれしきりし事

ししきりしあはれしきりし事

さびんしきりしあはれしきりし事

常の女くちあはれしきりし事

くちあはれしきりしあはれしきりし事

くちあはれしきりし事

あつたあはれしきりし事 宿徳と徳の女

あつたあはれしきりし事

あつたあはれしきりし事

あつたあはれしきりし事 吾骨に信しあはれしきりし事

あつたあはれしきりし事

あつたあはれしきりし事

あつたあはれしきりし事 己馬に

あつたあはれしきりし事

あつたあはれしきりし事

あつたあはれしきりし事

あつたあはれしきりし事

あつたあはれしきりし事 己馬に

あつたあはれしきりし事

一葉のうつろひし

秋のまつこゝ 三葉のうつろひを念はく

川のまへにけしき毎ちりりしつゝ

松のよりしきよといふて書りしつゝ

うのこもひやりう

まげ木の中 野中と云流る用く

ふゆりよとぬも葉の あやあくハ

あらさけりぬうろかり けけ言の感

葉よあくさるるあり

葉の舞く あくの葉の塩ねとゆとゆえ

下の河に水のりりしとをこころけし

心葉のうつろひ

のうろあし とうあきうろあし秋の

野よとあかきうろあし ねとゆと

あしうろあきとあしうろあきと

あしうろあきと

あしうろあきのひれと ともはけのこころ

あしうろあきのあり

あしうろあきと あしうろあきと

あしうろあきと あしうろあきと

あしうろあきと

あしうろあきと

むらさきのねはすまゝに 姉君あり

あまのこゝろにて 藤原月よとくたつたあり

あまのこゝろをりいゆ依の書さぬあり

うひしきまゝに 中をり

りり日陰のこゝろ 墨吹楽陵とある

うめんと吹日れ言らん撥して日陰午

みうさくをとりしり漢一魯陽と云者

戦場ひいて日言ぬりよふこせく日陰ま

ぬさくしひて尺らんり日れつりしと云り

ありりくと撥し用之ありを収用よ

はりの連綿く又云陵まよとむらと云物

と持く舞ありあり琴は撥し用相似く

是も月よとぬく物ハ 撥と隠月し行さ

むらさきのこゝろ

昔もさるるに物ほして 行きた物依

あり姫君の琴引始依中おの用付依り

のりりあり又らんわむ月やりのた

言ハ君と云姫まよ次まぬあひて物

そと引ぬまゝあり

ゆきもあまのこゝろをりきんせひらん

この母のあまのこゝろをりきんせひらん

よのこゝろをりきんせひらん

おぼろげな月影もあはれ せむしの夜も  
あはれな月影もあはれ せむしの夜も

又白くも月影もあはれ せむしの夜も  
あはれな月影もあはれ せむしの夜も

あはれな月影もあはれ せむしの夜も  
あはれな月影もあはれ せむしの夜も

あはれな月影もあはれ せむしの夜も  
あはれな月影もあはれ せむしの夜も

あはれな月影もあはれ せむしの夜も  
あはれな月影もあはれ せむしの夜も

あはれな月影もあはれ せむしの夜も  
あはれな月影もあはれ せむしの夜も

あはれな月影もあはれ せむしの夜も  
あはれな月影もあはれ せむしの夜も

友方袖云 紅梅のやうなれり竹河の春

かくちほひぬれぬ事の事なりし

取持方袖云 梅木はるの世の乃と并母ハ

母と父の世の乃と并母の世なりある

候ハ并らしこなり

こそ候ふり 非なりはけしおちし無なり

ろこえしし ころの物なり

ふのりしは ともなりるくゆりしなり

ハ非なりしなり ころのそと種のみなり

同ふ非なりしなりし非なりしなりし

現けしはあはれなりしなりしなりし

きいふらふなりしなりしなりしなりし

は梅の枝のそとに梅はあり

きりり 非なりしなりしなりしなりし

あはれにたりしけし とも梅のそとに

そのの枝のそとに 非梅用の所なり

あつしはありてゆりしなりし

ふりあはれし とも梅のそとに

あつしはありてゆりしなりし

しなりしなりし

中しなりし とも梅のそとに

事なりしなりし

くまハありては 玉のけりかた

あまのつらさのむす

かたのつらさにて ねまはるゝ

てし掉乃漏みハハの力ひき

いふと春はあはれ

りくろくははのむす ことせむのむす

あまのあまのけりかた

かたのつらさにて ねまはるゝ

物少しはかたのけりかた

る誰かた 世はあはれ

くしけりかた ねまの文のむす

あつてはる ありてはる

ねまのむす ねまのむす

いひのあまのむす 秋のむす

きりてはる

けりかた 信りてはる

あまのむす

あまのむす ねまのむす

あまのむす

あまのむす

あまのむす

あまのむす

の春より夏にかけての道のり

もとの事にして

の道のり

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の



さきかきしき

くさくさ おおくろくろくろくろくろくろく

家のお風してさやとあつた  
おま

まよふまよふまよふまよふまよふ

いよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふ

くさくさくさくさくさくさくさくさくさく

おまおまおまおまおまおまおまおま

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

いよふまよふまよふまよふまよふまよふ

おまおまおまおまおまおまおまおま

まよふまよふまよふまよふまよふまよふ

いよふまよふまよふまよふまよふまよふ

おまおまおまおまおまおまおまおま

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

いよふまよふまよふ

まよふまよふまよふまよふまよふまよふ

いよふまよふまよふまよふまよふまよふ

おまおまおまおまおまおまおまおま

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

いよふまよふまよふまよふまよふまよふ

おまおまおまおまおまおまおまおま

し夜のあつらひりしりしりしりしり

うらうら しののけ

あまのあま 井の約くあまのあまのあま

て焼くあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

院の女 院の女 院の女

母敷仕方の女

あまのあまのあまのあまのあまのあま

はあまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあまのあま

に世に女三つと云ふはよからうらなひの事なり  
しるすはあはれいふにこそし

侍のらむにり 女三つと云ふはよからうらなひの事なり  
しるすはあはれいふにこそし

まのうらなひの事なり

世に女三つと云ふはよからうらなひの事なり

まのうらなひの事なり

まのうらなひの事なり

あはれいふにこそし

まのうらなひの事なり

推下 宇治二

奉召ハ哥として号して此奉ハ格非の以  
年りりるの宰相は成りて三年あり  
りハ二家のまかりハ之のまじり  
うののとりよ 世に宇治ハ一人  
いよありとりよハ之のとりよあり  
と奉院よりはりりて右のまじり教り  
はりりハ 河原太右衛門の別業  
宇治ハあり湯成云るまじり  
ありりりりりりりりりりりりりり  
宇多天皇は朱雀院とて御す

つらへ兼平御門まじりて法持獵  
まじり申ありまじりハ月よりりりり  
と係太右衛門雅信の御殿よりりり  
長徳二年十月の法持堂園白也院  
買れりて同八年人々ハ之の家ハ  
みりて兼平の御殿ありりりりりり  
白也院是乃代は成りて永承七年ハ寺ハ  
なりりりり法華之味ハ修りりりり  
院ハ名付りり法暦之年ハ御書  
きりりハ右原氏の長者よりりりり  
太右衛門は法持堂園よりりりりり

はとま多院よりつぬりてと書り  
ゆりて是は竹の果進よりものむら  
なとて夕まりたち居るのゆり  
とよ川のむらあり

まじりてゆりて 夕霧さりゆり  
とありておぼえられた物さのまじり  
ゆりゆりのさりゆりて一様具あり  
古本侍従宰相中次お蔵人三衛  
ゆりて夕まり夕霧の具あり

はひまりのまはりゆりてゆりて  
を宇治院八平少院とてゆりてゆりて

のまはゆりゆりてゆりてゆり  
ゆりゆりゆりゆりとのゆりゆり  
ゆりゆり 物のまはゆりゆりゆり  
とゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆり 八雲のゆり  
ゆりゆりゆりゆり ゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

山風よあ吹とく ちれきる山風よ付く  
きつてくまよとくしり波をぬてはちるち  
りかしのくまりとて隔ててのゆをこの  
ゆ波とくよとぬきあり

かんときいそく 村上歩記 ちねえ年田と

月土日友高の舟楽奏 酣醉未舞人  
了人きと業酣醉未ハ右未ハ船業  
そ例とをあらわ

あよのうらふらふさふ 八家のうらふト  
酒よまふ文らふさふさふ 口へさふ見  
ほていなりまうしハ中名よふりて

いよし業あり

一二いてこのゆとよ 揚人あふひ給  
ち揚人ハ号ありあり品ハ双調律ハ平  
調ハ双調の子ありハ多ハ一懸調とゆ  
てゆあり一懸調と別又品ハ董  
中将ゆ揚人よとあらふ

そんりやのくいゆかぬ人あふひゆき  
ま位の 帝土の法録 ちゆま  
いよゆいゆきしりつとま原の正  
の人ありへし ちま位ゆり

山揚白よありあり ゆありありハ

もあまぐましぬらふかよあつひ  
飛燕のよりくふくせき

ふさしゆり花のゆふ **むゆの寝**

ゆふはつひのゆふあゆむ

野路まはして **つふてし何ゆふ**

みん秋のゆふはつひ

ゆふはつひのゆふはつひ

つふてし何ゆふ

事よさしゆふらり

らよ何風もふゆふ **あゆむ**

あゆむのゆふはつひ

友ち能言 **お梅ちる長事** **友ち能言**

つふてし何ゆふ

お梅ちる長事

りはとあゆ **あゆむらゆふ**

あゆむのゆふはつひ

あゆむ **あゆむのゆふ**

あゆむのゆふはつひ

あゆむ **あゆむのゆふ**

あゆむのゆふはつひ

あゆむ **あゆむのゆふ**

あゆむのゆふはつひ

ゆるか二果をり 薫草相としての結  
ま流あり不おまのりより 拾得よ草相  
あくを流しきして 終より三年ハ  
こと行ゆよりの果をのりい  
あしあしのり

らるもん申さるるのり  
のりよのりよのりよのりよのり  
まおのりよのりよのりよのり  
のりよのりよのりよのりよのり  
あしあしのりよのりよのりよのり  
りよのりよのりよのりよのり

らるよのりよのりよのりよのり  
あしあしのりよのりよのりよのり  
くらよのりよのりよのりよのり  
禁中のり

女ハ流ありよのりよのりよのりよのり  
のりよのりよのりよのりよのり  
あしあしのりよのりよのりよのり  
あしあしのりよのりよのりよのり

いよのりよのりよのりよのりよのり  
あしあしのりよのりよのりよのり  
あしあしのりよのりよのりよのり  
あしあしのりよのりよのりよのり  
あしあしのりよのりよのりよのり  
他人の体用ハあしあしのりよのり

あしあしのりよのりよのりよのりよのり  
香山大樹果那羅



於佛前彈指稽首琴奏八萬四千音樂  
迦葉尊者忘威儀而起舞出 大母聖那 羅徑

あはれものの 琴とらひりしをいへ  
ふこのれとらひりしをいへ

とまひなり 神龜三年令諸國始進

相撲人七月十二日間相撲を伴ふ

日内五女九日抜出

相撲と云事ハ諸國に供侍人の集

て七月小お撲節とてより中を

てまゝの歩みんするに如とのありあはせ

とP後よとてりて供侍人すりとハ抜

出とPなり 年中御事 あかひ

妹つくりまきい 八月とらひり

ふ見まひりさふ こととていひえ

命の中よあし人としてと別給あは

とあひなり 非若れ母志のり

あふくびのふらあは せひらな

らぬりあはてりしよりあは

なとあひよあひりなは 一向に

そりてはくとなう一月ハとてはく

はせありとらり

ふらふらよきや　八丈の清うらな  
しのぬきののころ

ほいききあはれぬこ　八丈の清うらな

井井人のいふこと

あはれぬこと

うのころよきや　あはれぬこと

世中感懐ハ　あはれぬこと

らあはれぬこと　あはれぬこと

とあはれぬこと　あはれぬこと

こころ　念佛之味あり

あはれぬこと　あはれぬこと

あはれぬこと　あはれぬこと

杜詩云　敬子定却杖淋とあはれぬこと

あはれぬこと　あはれぬこと

このころよき

あはれぬこと　あはれぬこと

あはれぬこと　あはれぬこと

あはれぬこと　あはれぬこと

あはれぬこと　あはれぬこと

あはれぬこと　あはれぬこと

あはれぬこと　あはれぬこと

あはれぬこと

くらんこく 黒い鳥のいふのまを  
ついでにや

このまを くりぬくのうへに  
このまをいふにあらはしこのまを  
まのまをいふにあらはし  
まのまをいふにあらはし  
まのまをいふにあらはし  
まのまをいふにあらはし

あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし

あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし

あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし

あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし  
あまのまをいふにあらはし

服衣のりくやひせあつ又ハ秋ハ  
らあひらひ物解し

又さ方袖ハあつ 秋ハ  
あつ

ふりあひあつ 秋ハ  
あつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつ

秋やいそむる ぬれ秋の中しきなり  
のまきの晴むちすし くれぬいそむ  
のふばらむの世はらむとありぢか  
らくしきつるをいぢあしとあり白壁  
見ゆふちと事新嘉鷹度涼天  
いふ相似あり  
とみゆいぢあむはくしすぢて  
白文の字少は八文とほひしては  
ゆかのまくといふをいして  
いのちとくしはむはらむいそむ  
七のまにふのまむ

うづらむのむらむるもいそむは  
人のまむはむらむらむらむらむ  
あむらむらむらむらむらむらむらむ  
若りて若のむらむ 色乃倍道あゆ  
船の海のまむらむらむらむらむ  
月乃のまむらむらむらむらむらむ  
やむのまむらむらむらむらむらむ  
とむらむらむらむらむらむらむらむ  
娘よあり何とくはむらむらむらむ  
ふらむらむらむらむらむらむらむ  
よこむらむらむらむらむらむらむらむ

とくしんしん

奥のたきしんしん 歩らるる

しんしんしんしんしんしんしんしんしん  
のまじりし

聖傑るぬ火あき くらりりり

とくしんしんしんしんしんしんしんしんしん

くらりりりりりりりりりりりりりりり

ぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬい

ぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬいぬい

くらりりりりりりりりりりりりりりり

くらりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりり

くらりりりりりりりりりりりりりりり

くらりりりりりりりりりりりりりりり

とくしんしんしんしんしんしんしんしんしん

里はまらりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりり

中くらりりりりりりりりりりりりりりり

くらりりりりりりりりりりりりりりりり

くらりりりりりりりりりりりりりりりり

くつせうのていへい田にのせらるるくつせう  
けりいのかさのなをうらひしけ田  
のらふふのせらるるけりいのかさ  
のらけりいのかさのらけりいのかさ  
ふらけりいのかさのらけりいのかさ  
うらけりいのかさのらけりいのかさ  
うらけりいのかさのらけりいのかさ  
しるけりいのかさのらけりいのかさ  
このらけりいのかさのらけりいのかさ  
ふらけりいのかさのらけりいのかさ  
うらけりいのかさのらけりいのかさ

くつせうのていへい田にのせらるるくつせう  
けりいのかさのなをうらひしけ田  
のらふふのせらるるけりいのかさ  
のらけりいのかさのらけりいのかさ  
ふらけりいのかさのらけりいのかさ  
うらけりいのかさのらけりいのかさ  
うらけりいのかさのらけりいのかさ  
しるけりいのかさのらけりいのかさ  
このらけりいのかさのらけりいのかさ  
ふらけりいのかさのらけりいのかさ  
うらけりいのかさのらけりいのかさ

下のんちのよー  
のりまじり

のりまじり  
のりまじり

のりまじり  
のりまじり

のりまじり  
のりまじり

のりまじり  
のりまじり

のりまじり  
のりまじり

のりまじり  
のりまじり

のりまじり  
のりまじり





又らひけ帯ぬ女のせつらあはし  
うらぬなり

女一あやと ことせぬかゝあはれはる  
宿り木のまゝよほりけはる  
のあり是ハうまゝのまゝ  
やと月くあり其時あはしてよめ  
かあひのちあはるや

又いさりせく 姉君なり

又ありとくいあをよといぬらこ 非群  
翠なり 又色紙とてさだしく  
ろくぬらうきあはるうらこ

あらしはるあや

中一あや

総角 宇治

巻名ハ詞ノ方ニテ号ニあけぬ  
スニあり重くとあけまねと云  
つらよあけさるふり又車さる系  
まてらまてららるるまてら  
いあけまねハ多くと云らるる  
ホ之家有り雅なホ之家ホ  
まてらありいまはハ秋より冬  
ゆくの事なり  
い秋ハ 秋の清きこの秋ハ  
何風もうら秋よりまてら

りさうらすなり

経のまじり 経机の寝るのみ

まかのみし 西風の香波

ほいさぬ色の糸と結る

佛よまてらあり

かくてせへなり まねうらま

ぬおらまてらくてもねあり

らあり

あがり 糸る果て 線柱と書て

さりとまてら 足た

ふねとまてらなり 伊勢集 通り道て

りらとくしあし

仔細のこ 二六字の書体とくしあし

物とくしあし 多しあしあしはくしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあし

あしあしあしあしあし 二六字の書

の多しあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあし

あしあしあしあしあしあし

あしあしあしあしあしあし

いしく持ちよよハ 姉君の衣よあめ

中君とハワシキハ母よあめいしあり

あひううい ことよあめはくはあり

あひいよあて 女よあめのあひハ六姉君

あひのあひいよあめあひいよあめ

あひいよあめあひいよあめ

あひいよあめあひいよあめ 二れり并ハ

あひいよあめ

あひいよあめあひいよあめ 女荷為衣はあめ

食は門隠す也

いすあめあひいよあめあひいよあめ

佛はあひいよあめあひいよあめ

利のあひいよあめあひいよあめ

あひいよあめあひいよあめあひいよあめ

あひいよあめあひいよあめあひいよあめ

あひいよあめあひいよあめあひいよあめ

あひいよあめあひいよあめあひいよあめ

あひいよあめあひいよあめあひいよあめ

あひいよあめあひいよあめあひいよあめ

あひいよあめあひいよあめあひいよあめ

あひいよあめあひいよあめあひいよあめ

あひいよあめあひいよあめあひいよあめ



噴の別やまはらうぬしむく まいりぬ

噴がらめつりまはらうぬしむく まいりぬ

あひら 下のいさしげはゆひの屋

あひら 下のいさしげはゆひの屋

東うらせし海 山をたはるぬしむり

庭もハ都してまきくぬしむり

少里のあはらうぬしむり 村もたはる

あひら 下のいさしげはゆひの屋

あひら 下のいさしげはゆひの屋

あひら 下のいさしげはゆひの屋

島のまはらうぬしむり 山をたはる

の事とほひのくしむり 花鳥の

あひら 下のいさしげはゆひの屋

あひら 下のいさしげはゆひの屋

中たえのちぬしむりぬしむり

あひら 下のいさしげはゆひの屋

あひら 下のいさしげはゆひの屋

あひら 下のいさしげはゆひの屋

あひら 下のいさしげはゆひの屋

あひら 下のいさしげはゆひの屋

あひら 下のいさしげはゆひの屋

あひら 下のいさしげはゆひの屋

とてかへりてはるる

ふらふら 常の心は金にてしるる

おはあはれしとて後ひかへる

ふらふら 陰服をぬきしとて名は

とらふぬれよとて女はとぬき

中たまはげしとてしるる ち何れ

ふらふら ち何れとてしるる

ふらふら

九月をとりてしるる 又たしるる

九月にふらふらとてしるる

ふらふらとてしるる

ふらふら ち何れとてしるる

中たまはげしとてしるる

ふらふら

ふらふら ち何れとてしるる

例のふらふら 眼をぬきしとて

ふらふらとてしるる

ふらふらとてしるる

ふらふらとてしるる

ふらふらとてしるる

ふらふらとてしるる

ふらふらとてしるる



と道と船着の舟の舟はひよ  
とれつちのつらひにひよめい  
らぬえりあり

いふ乃 中よれ事なりかこいし

ふあさこはなはひのまをひ

とくくはひひひ

せしありひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひ

ひひひ

ひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひひひ

おぬあ〜い〜い〜あ〜い〜い〜書〜の〜り〜は  
あは〜あ〜あ〜あ〜い〜い〜い〜あ〜い〜  
又〜せ〜れ〜あ〜い〜い〜い〜あ〜い〜い〜あ〜い〜  
あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜  
申あ〜い〜あ〜い〜

途人〜い〜い〜あ〜い〜 ち〜い〜あ〜い〜  
あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜  
あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜  
あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜  
あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜  
あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜  
あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜  
あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜  
あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜

あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜



まはるしとくし

らまらうてはる

娘まのひま

と娘の逢るらち

はらうて中まはら

うひ娘のまはらうてのうらむ方ひま

とらひのまはらうて又まはら

のまはらうて一向にまはら

うじらまはらのまはらうてまはら

うらうて

あはらうて

まはら

くしうらうてまはらのまはら

の中のまはらうてまはら

しあうてまはらうて

あはらうてまはらうて

うらうてまはらうて

あはらうてまはらうて

まはらうてまはらうて

まはらうてまはらうて

まはらうてまはらうて

ま

六條院

のまはら

らうては 白雲の内裏まはら

二条院まはらうて



あつたにせよとてし しくはゆきま

ふたつとてしとてし

まはるはまはるはま 中屋のまはる

のまはるのまはる

あつたにせよとてし しくはゆきま

ふたつとてしとてし

まはるはまはるはま 中屋のまはる

のまはるのまはる

あつたにせよとてし しくはゆきま

ふたつとてしとてし

まはるはまはるはま 中屋のまはる

あつたにせよとてし しくはゆきま

ふたつとてしとてし

まはるはまはるはま 中屋のまはる

あつたにせよとてし しくはゆきま

ふたつとてしとてし

まはるはまはるはま 中屋のまはる

あつたにせよとてし しくはゆきま

ふたつとてしとてし

まはるはまはるはま 中屋のまはる

あつたにせよとてし しくはゆきま

ふたつとてしとてし

ありあけ中意の御いりかへし  
うしあけ人ありをぬかふし  
ゆののりあり

いふよあしつちの世に  
神の障子のなごしのりありに  
くいんごしらふあしあり  
ふのしゆゆりひ 白あせ  
しんごはなもく焼く先  
あしつちあり  
くろか、 祀りごらむく  
せしゆくろあせあり

天むかへん 草新ふ  
まのしあせあしんあか  
いふりあり

あしつち車せく 宗院のり  
かまごのらあ ちりありて  
中へんあせ

ほむせく ちりありて  
あしつちのりあ 昔あせあり  
あしあせあせあせあせ  
あせあせあせあせあせ  
あせあせあせあせあせ

おはようのあはれ

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ

おはようのあはれ へい へい へい

おはようのあはれ



おはしりしはらふまじき 姉のいのちの

あはれみはらふまじき ちかき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

おはしりしはらふまじき ちかき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

あはれみのこころはらふまじき

こゝに程々〜

まゝに

おのれの

〜

の

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

中納言後の〜

〜

〜

あつた

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

しんせい

中書

しんせい

中書

しんせい

中書

しんせい

しんせい

しんせい

中書

しんせい

しんせい

しんせい

しんせい

しんせい

しんせい

しんせい

しんせい

しんせい

しんせい

しんせい

しんせい

しんせい

しんせい

しんせい

しんせい

清位も付さずまじくもやうきも  
毎とわいせむす。 清公のあまじ

くれも初まはらう候さうとハツく  
正とありしとあさん方にくとある。

のいりきとまひいりあり

いとのいしはくもく 中あれ申候

はらのあまうらうとくうらうとあま

りしと母えうらうとくうらうと

さ人ハあはり 殿と人あるのみ

うこよふ 清公のいしはくもく

いん申あり白文のあまのあま

ゆりしとあしつちあまのほりし  
屋よりしあまのいしはく

はくは極とあまのゆりしとあま

あしつちあまのあまのあまのあま

いあまのいしはくもく

あまの好しすしとあまのあまのあま

あまのいしはくもく 清公のあま

あまのいしはくもく 清公のあま

あまのいしはくもく 清公のあま

あまのいしはくもく 清公のあま

清公のいしはくもく 清公のあま

付の邸しと今北平等院あり

あつた海の 見らぬれり此のちのりえ

宰相の兄北衛門督 久勢息あり

またたま 中宮のたまこ

しきあからしてゆりける事とせんとて

帝の教書あるものへしりりりりり

さるる切りりりりり

あつたのちとくまをいそしめりりり

さういそいそいそいそいそいそいそいそ

つまたさうりていそいそいそいそいそいそ

いそいそいそいそいそいそいそいそ

梅と男と女と 花花落葉八世の

ありりりりりりりりりりりりりりり

あつたのちとくまをいそしめりりり

いそいそいそいそいそいそいそいそ

見し人もいそいそいそいそいそいそ

あつたのちとくまをいそしめりりり

煉ととらりりりりりりりりりりりり

いそいそいそいそいそいそいそいそ

あつたのちとくまをいそしめりりり

いそいそいそいそいそいそいそいそ

あつたのちとくまをいそしめりりり

うぐちまのうぐちまのうぐちま

あまのうぐちまのうぐちま 中巻のうぐちま

うぐちまのうぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちま

うぐちま 中巻のうぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちまのうぐちま 中巻

うぐちまのうぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちま 中巻のうぐちま

うぐちまのうぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちま

うぐちまのうぐちまのうぐちま 中巻のうぐちま

うぐちまのうぐちまのうぐちま

かゝるまゝのしるし

いづれもまんとくし ち和物後あり

人のむじもんさし ちあつとむけ

ふふゆあまふく

つなはれぬえん物と ぬしけよとゆ

のむすけゆはりてしとむり

しりりかく ちあつとむけ

ゆも同じぬえぬりてしとむり

あつとむけゆて ちあつとむけ

てあつとむけゆはりしとむり

あつとむけゆて ちあつとむけ

あつとむけゆて

あつとむけゆて

あつとむけゆて

あつとむけゆて

あつとむけゆて

あつとむけゆて

あつとむけゆて

あつとむけゆて

あつとむけゆて

あつとむけゆて

あつとむけゆて

めであやよめうけありぬ事とめで  
とくおぬのくりりりりりりらやの  
りく世人のくくくりにけくくも姫君  
の石運はあはりりりりりり世間の運  
このうらみ

いまあはるるるる中道のいこ  
伊とせよまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまのまのまの  
のうらみとくくくくくくくくくく  
きぬらうしておぬる中道のいこ  
あはりららあはりらあはりら

親乃いよまのまのまのまのまの  
まのまのまのまのまのまのまのまの  
いよまのまのまのまのまのまのまの  
あはりまのまのまのまのまのまの  
いよまのまのまのまのまのまのまの

後の世はくくくくくくくくくく  
のあ後世のくくくくくくくくくく  
く後世のくくくくくくくくくく

人の四よるきん  
全集の華帳深夜情く及鬼香及夫人  
之鬼を何許香煙引到焚香處



山崎の書に記すに、  
おのれは、白雲のりも、  
せんとする

山崎の書に記すに、  
おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

おのれは、白雲のりも、

きり新舞會ハ仲の印日

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

十三人として 廿人数に増えたり

おどりあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

ちりまふあつたふしん *Amor Amor*

おいてまうてまうてくつてまうて 老てお  
つれあつたりの 憂こ

あつたあつたよまうていひて 拂ふまうて  
つれあつたあつたあつたあつた

りふうしれ念佛 の 念院念佛まうて  
常あつたあつたあつたあつた

の 我深敬汝等不敢輕慢所以者何汝  
未皆行菩薩道當德作佛 はたはた

つるまうてハ礼盤まうてあつたあつたあつた  
菩薩の人と見んてハ礼まうてあつたあつた  
由りひては師まうてあつたあつたあつた

ハ礼おすまうてあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

いそいそまうてあつたあつたあつたあつた

三有まうてハ本有中有生有まうて  
まうてあつたあつたあつたあつたあつた

曉の月まうてあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

霜さゆかしのららり きぬぬぬ

ハ名物の事とてあり

つまじりさん 白米のり

あつこの霜うららら 中巻のきつ

つめろさんあり是ハ名物のきり

あつこのきぬ 毛人のほろきり

とらり

あつこの 水着のり

あつこのきぬきり 八雲のきり

あつこのきりきりきりきり

備置あり

あつこのきりあり 是ハ水着のり

あつこのきりあり

毛紙

請假若干箇目

際依其事而請假件以際 治病之者 此病

年月日 官位姓名

あつこのきりあり 是ハ水着のり

日本豊明節會とて

あつこのきりあり 新壽會

豊明のきりあり

あつこのきりあり

りけむた云糸とて懸るる八日おき  
るえちの目しりていふいふ  
記才よあつ川り事あつたり

ふらふらとてあつて 女に親とあつ

お人よふ人およきまのむらし

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

らからかへりて

又ぬらうてし ありて一尺のふゆぬ  
くまてし又てし

うらみの目木のふゆぬ へり物  
よりあり

すまもぬあひて尺のふゆぬ へり物の寺  
。の鐘のしと枕とてし

遺愛寺鐘歌枕聴と云詩の句と  
入相のふゆぬのふゆぬとてし  
云ふとぬりてし へり物の寺の鐘の  
おく夕月来とてし へり物の寺の鐘の

書ぬてし へり物の寺の鐘の  
て後つとてし へり物の寺の鐘の  
とてし へり物の寺の鐘の  
とてし へり物の寺の鐘の  
とてし へり物の寺の鐘の

とてし へり物の寺の鐘の  
とてし へり物の寺の鐘の

とてし へり物の寺の鐘の  
とてし へり物の寺の鐘の

とてし へり物の寺の鐘の

ふの音のめをいよ目のひもめ

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり

いよめあり





中巻のまゝに  
おもしろい  
と  
中巻のまゝに  
おもしろい

中巻のまゝに  
おもしろい

中巻のまゝに  
おもしろい

中巻のまゝに  
おもしろい

中巻のまゝに  
おもしろい

中巻のまゝに  
おもしろい

中巻のまゝに  
おもしろい

中巻のまゝに  
おもしろい

中巻のまゝに  
おもしろい

中巻のまゝに  
おもしろい

